

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説 700日 県政の革命児!

# 後藤かつみ

## 県議会だより

vol.15

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所  
住所 高崎市八幡町800-24  
TEL&FAX 027-343-1393  
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

<http://www.ccrgoto.com/>

### 県民目線での予算編成を提言

#### リベラル群馬、H23年度予算への提言書を提出

#### 第二会派の責任は重大

後藤の属する会派「リベラル群馬」は、去る12月15日に次年度予算に向けた提言書を大澤知事に提出しました。

「リベラル群馬」は、題ある施策について堂々と「NO」を突きつける唯一の会派として、県政運営を県民目線に正す重大な責任を負っております。

#### 雇用・中小企業対策を中心に提言

「リベラル群馬」は、知事とは真の意味で「是々非々」のスタンスを貫いています。知事に対しては、良い施策には協力しつつ、問題

厳しい経済状況を受け、提言内容も景気対策が中心となっていますが、従来型の公共事業

会では、知事の予算案に対する修正案を提出するなど、県民目線での政策論議をリードしてきたところです。

を見直すことで、山村地域でも持続的な雇用が生まれる施策についても提言しています。

業中心の対策ではなく、環境分野などの「新たな産業創出」に繋がる公共投資を求める内容になっています。また、群馬は多くの山村地域を抱えることから、農林業のあり方



大澤知事に対し、次年度予算への提言書を提出。後藤は提言全般を取りまとめている



定例議会中も寒さに負けず毎朝の県政報告を継続している後藤かつみ(上里見交差点にて)

#### H23年度予算に向けた提言書の主な概要

##### 1 雇用対策への提言

若者就職支援センター(ジョブカフェ)など、県独自で頑張っている施策を拡充し、一人でも多くの若者に希望の持てる雇用を提供する。

##### 2 地場中小企業対策への提言

新技術・新製品開発、販路開拓を支援する予算を拡充し、中小企業の「チャレンジ精神」を積極的にサポートする。特に、環境分野の支援を強化し、新分野での産業創出を図る。

そのバックアップとして、太陽光発電等の普及策を景気対策に終わらせず次年度以降も継続して行う。

##### 3 農業・林業を持続的な成長産業に

地産地消、ブランド農産物の販路開拓を進め、県内農産物の需要安定・拡大を図る。

山林の放置されている間伐材をバイオマス発電等の燃料に活用し、山村地域に新たな環境産業を生み出す。

##### 4 安心安全な群馬県づくりへの提言

障害者および高齢者・認知症対策への予算充実。

医療サービスの充実に繋がる県立病院改革を進め、医師・看護師等の確保のための予算を強化する。



福祉現場の実態をくまなく調査を続ける後藤かつみ



食と農の大切さを子供たちに伝える取り組みを市民とともに続ける後藤かつみ

緊急の課題としては、超就職氷河期に直面し、不安定な雇用に苦しむ若者を一人でも多く救うために先進的な取り組みで頑張っている「ジョブカフェぐんま」の予算拡充等による雇用対策の強化を求めています。

# 「がん対策条例」が議員提案で制定

## 議員提案らしく 確実な実行を 求める内容

日本人の死因トップを占める「がん」対策は県議会でも最重要課題の一つです。県議会は、今年度より「がん対策特別委員会」を立ち上げ、全会派の参加のもとで、がん対策推進に向けた条例制定を目指して議論を重ねてきました。

条例は、①がん拠点病院の整備、②重粒子線等の高度先進医療の推進、③緩和ケアの充実、④専門的な医療スタッフの育成、⑤がん

## 本格的な 政策議論のできる 議会への一歩

本条例を会派を超えた議論のうえで制定されたことは、議会改革の最大のテーマである、「本格的な政策論

登録の推進(対策の成果の検証に役立つ)などを定めています。更には議員提案らしきとして、これらの事項を「努力義務」とせず、「財源の裏付けも図ったうえで実行する」という強い「義務」として規定し、逃げ道を作らないところが特徴です。

## 観光特別委員会

# プレDCCの真の成果を検証

## 一過性の イベントに終わら せてはならない

来夏に行われるJ&Rと共同による大規模観光キャンペーン「デスティネーション・キャンペーン(DC)」に向け、本年7月から9月にかけて「プレDCC」が開催されました。

「プレDCC」に投じた予算は約1億円ですが、その使途の殆どが広告宣伝費であり、一過性のイベントに終わる危険性があります。

後藤は、「DC」の目的は、一時的に観光客数を増やすことではなく、本県観光の弱みを改善する契機とすることであり、大切なのはむしろ「DC」終了後に何を残せるかであると指摘しました。

と言えます。

1年前には、自民が特別委員会の廃止を提案するなど、議会改革の後退が危惧される状況もありましたが、今回の条例制定を機に、全会派の協力のもと議会主導の政策議論が活発化することが期待されます。



地域の活力で新たな観光スポットを創出した代表事例である高知県の「ひろめ市場」を視察する後藤かつみ

## 地域を元気にする 観光産業の確立を

本県観光の典型は「温泉地を直行直帰」であり、限られた地域にしか経済効果が及ばないことが弱みと言えます。

「プレDCC」で唯一の明るい材料は、谷川岳の「星の観賞会」や、

岩宿遺跡にちなんだ「古代料理体験」などが好評を博すなど、地域おこしに繋がる観光企画が育ってきたことです。

後藤は、これらの取り組みを継続して支援し、県内各地域に新しい観光スポットを創出することが「DC」の真の成功であると提言しました。

# 地域活動報告

後藤かつみは、地域の安心安全の向上のために日々汗を流しています。皆様の地域の「声」をどんどんお寄せ下さい。

## 八幡地区



**国道406号：猿前橋の拡幅(下大島町)**  
国道406号「下大島町」交差点の西側「猿前橋」は、榛名方面から来ると急激に道幅が狭くなるため事故が多発していました。  
後藤は、地域要望をもとに受け県と協議を進め、道路の拡幅と線形改良の工事を進めています。これにより、事故の大幅な減少が期待されます。

## 飯塚・飯玉地区



**たかしん東・富運前交差点の信号機設置(飯塚町)**  
この交差点は、非常に見通しが悪く、過去から路面標示や標識の改良などの改善を行ってきましたが、重大事故が頻発する状況は改善できませんでした。  
後藤は地元町内会とH22年8月に信号機設置を求める陳情書を県警に提出し、協議を進めた結果、信号機設置が予算化されました。